敦賀ふるさとマップ（偉人編）

―芭蕉の来た道―

道程

「おくのほそ道」でたどった旅の順路

約５か月で600里（約2,400km）の旅をした。

解説

「おくのほそ道」とは

元禄２年（1689年）、松尾芭蕉が江戸から東北・北陸をまわり、岐阜の大垣までの旅の様子をもとに著した紀行文。古来より知られる歌枕や名所旧跡をめぐる旅であった。

また、訪問した各地で新しい門人と出会い、後にその門人たちが地方の俳諧文化の中心となった。

おくのほそ道（素龍本）

重要文化財
個人蔵

本隆寺

寂さや　須磨にかちたる　浜の秋
浪の間や　小貝にまじる　萩の塵
衣着て　小貝拾はん　種の月
小萩ちれ　ますほの小貝　小盃

8/16

色ヶ浜へ

月いづこ　鐘は沈める　海の底

国々の　八景更に　気比の月

金前寺

福井より

名月や　北国日和　定なき
月のみか　雨に相撲も　なかりけり

月清し　遊行のもてる　砂の上

古き名の　角鹿や恋し　秋の月

「おくのほそ道」
松尾芭蕉 敦賀の足跡
元禄2年（1689）8/14

松尾芭蕉
（1644～1694年）

俳諧において、蕉風と呼ばれる句風を確立し、それまでの言葉遊び的な表現を脱して、芸術にまで高めた。

江戸を出発し、東北、北陸を周り岐阜の大垣までの旅をもとに著した、紀行文「おくのほそ道」が有名。敦賀には友人であった素龍が清書した本が伝えられている。

8/17または18

大垣へ

そのほかの敦賀を通った偉人たち

大伴家持（746年頃）	菅原道真（893年頃）
紫式部（1000年頃）	道元（1293年頃）
新田義貞（1338年頃）	蓮如（1471年頃）
豊臣秀吉（1570年頃）	徳川家康（1570年頃）
高浜虚子（1957年頃）	（　）は敦賀を通った年号

年	時代	主な出来事	つるがの歴史と文化財
1万年前	縄文時代	まだ土器のない時代	
5000		縄文土器が作られる	
1000			（黒曜石出土）櫛川鉢谷遺跡
西暦0年	弥生時代	米作りが始まる 鉄や銅の道具が使われる	吉河遺跡 舞崎遺跡 高地柱集落
300	古墳時代	邪馬台国の卑弥呼が魏に使いをおくる ①	
400		倭王「武」が中国の南朝に使いをおくる	☆向出山１号墳
500		仏教がつたわる	
600		聖徳太子が摂政となる	
		白村江の戦い	
700	奈良時代	奈良に平城京がつくられる 奈良の大仏完成 全国に国分寺がつくられる	渤海使の来航
800		京都に平安京がつくられる	☆朝鮮鐘
900	平安時代	ひらがなが普及する	「芋粥」
1000		藤原道長が摂政となる 「枕草子」 「源氏物語」 ②	
1100		源義経が平氏を滅ぼす 源頼朝が鎌倉幕府をつくる 元寇	★深山寺経塚群
1200	鎌倉時代	鎌倉幕府が滅びる	
1300	南北朝時代	南北朝にわかれ対立する	☆金ヶ崎城跡
1400	室町時代	南朝と北朝が一つになる 足利義満が金閣寺を建てる	
		応仁の乱	
1500		鉄砲伝来 ③	
		④	
	戦国時代	賤ヶ岳の戦い ⑤	☆玄蕃尾城跡 敦賀城
1600		関ヶ原の戦い	★高徳寺本堂
	江戸時代	鎖国 ⑥	☆気比神宮大鳥居
		西廻り航路が整備される 芭蕉「おくのほそ道」の旅に出る	
1700			☆おくのほそ道 素龍清書本
		北前船の交易が盛んになる	☆柴田氏庭園
1800		⑦	
		⑧	西福寺御影堂 ☆武田耕雲斎等の墓
		大政奉還	
1900	明治・大正・昭和	最初の鉄道が敷設される ⑨	○旧敦賀港駅ランプ小屋 旧北陸線トンネル群
		日露戦争 ⑩	赤レンガ倉庫
		満州事変 ⑪	☆旧大和田銀行本店
		太平洋戦争 ⑫	旧敦賀倉庫

☆…国宝・国指定重要文化財
★…福井県指定文化財
○…市指定文化財

①

ツヌガアラシト
（不詳）

朝鮮半島から訪れた伝説的王子

優れた天皇がいると聞いて日本をめざしてやってきたツヌガアラシト。

波おだやかで天然の良港と言われる敦賀には、古代より大陸から人々が渡ってきたと考えられ、そうした人々を象徴する人物とされている。

②

藤原利仁
（平安時代）

勢徳の者の婿「芋粥」で有名

平安時代の実在の人物。後に多くの武士の祖先とされ、超人的な力があったという伝説もある。「今昔物語集」の敦賀の豪族の婿となり、都の知人に「芋粥」をごちそうするため敦賀に案内した話は芥川龍之介の小説にもなっている。

③

織田信長
（1534～1582年）

天下布武！ 尾張の天下人

天下統一を目指し、一乗谷の朝倉義景を倒すため、敦賀から敦賀へ。敦賀の朝倉勢を破った後、現在の長浜市にいた浅井氏を警戒して撤退。その後再び朝倉氏を攻めるため敦賀へやって来た。

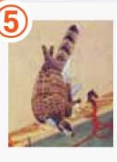
④

大谷吉継
（1565～1600年）

信義、忠誠の武将 敦賀城主

豊臣秀吉に仕えて、その能力を認められ、凄として重要であった敦賀五万石の城主となる。関ヶ原の合戦では西軍を勝利に導くために作戦を立てるが及ばず自害する。

⑤



橋本長兵衛
（？～1625年）

鷹の絵が大得意 敦賀の人気画師

鷹の絵を専門に描き、人気を博した敦賀の画師初代。長兵衛は中橋町（相生町）に住み、敦賀を治めた蜂屋頼隆から「橋本」の姓を贈られたと言われる。武将たちに好まれた鷹狩の鷹を精巧な筆致で描き三代にわたって活躍した。

⑥

打它宗貞
（1559～1643年）

巨万の富をきずき 敦賀第一の町人頭に

江戸時代の初め頃、領主のもとに応じて、様々な物資を輸送し、富を蓄えた。打它家は敦賀において町人の代表という特別な地位を維持しつづけ、敦賀町人No.1は「打它格」と呼ばれた。

⑦

金井源兵衛
（1785～1871年）

時代の先を見つめる 東浦みかんの恩人

阿曽に生まれ、東浦の気候風土の研究に打ち込み、色々な果実類で実験を行い、みかん類の栽培が土地に最も適していることをつきとめ、広くこの種苗を推進した。

⑧

武田耕雲斎
（1803～1865年）

道半ばで倒れる 尊皇の志士

元治元年（1864年）、尊皇攘夷のため、水戸の武田耕雲斎ら約千名が京都を目指して旅立ち、途中、敦賀で幕府によって捕らえられ、耕雲斎を含め350余名が処刑された。

松原神社には処刑された人々がまつられている。

⑨

大和田荘七
（1857～1947年）

大和田銀行創立者 敦賀経済の祖

初代荘七の跡を継ぎ、港町敦賀の発展に尽力。商工会議所や敦賀の特産品だったわら製品の生産組合を組織。また外国との貿易ができる港を目指して運動した。

明治25年に大和田銀行を創立。敦賀の経済活動を支えた。

⑩

橋本進吉
（1882～1945年）

家業ではなく、言語学者の道へ

代々医者を営む橋本家の長男として、晴明（相生町）で生まれる。就学は小学校（敦賀西小）に入学し、１年生の頃から英語を習ったと言われる。

国語学者、東京帝国大学教授。古代の仮名遣いを解明した。

⑪

大塚末子
（1902～1998年）

両親の姿が、後のデザインのヒントに

魚問屋を営む父母のもと、４人兄妹の長女として生まれる。敦賀町立敦賀実科高等女学校を１年で中退し、本格的な和裁を習い、着物デザイナー、研究家として現代に合う着物の開発などに情熱を注ぐ。敦賀の山車を売却から救った。

⑫

桑原武夫
（1904～1988年）

故郷は祖父母の家がある敦賀

京都で育ったが、両親のふるさとであった敦賀に、とても愛着を持っていた。「出身地は福井県の敦賀町蓬莱である」と常に言っていた。

フランス文学者、評論家。スタンダールやアラン等を日本に紹介した。

製作：敦賀市小中学校教頭会、敦賀市教育委員会　2017